

美 をつくし

MIWOTSUKUSHI

vol.175

平成23年(2011)3月1日 発行



色絵 桜花柴文皿

鍋島藩窯・盛期鍋島 江戸時代(17末~18世紀) 本館蔵 [田原コレクション]

鍋島藩が将軍家や有力な大名・公家への贈答品などとして、佐賀県伊万里市大川内山に所在する鍋島藩窯で制作した七寸皿。鍋島焼の色絵は、染付の縁取りに色釉を充填する中国の豆彩と同様な技法を用いているために華やかで清らかな印象を与える作品が多く、本器もその典型作といえる。



OSAKA MUNICIPAL MUSEUM OF ART

大阪市立美術館

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
特別展 特別陳列	特別展「第42回 日展」																														
常設展 (平常展)	「光琳資料」「雛人形」 「江戸時代の装身具Ⅱ」「衣裳」という名の衣裳																														
美術団体展 (地下展覧会室)	2011 ZERO展(1・2室) 全国公募翠峰会書展(3室) 全日本アートサロン 絵画大賞展(4室)				白亜展(1・2室) 人展(3室) 青桃会展(4室)				関西一陽展(1・2室) 書道学会展(3・4室)				関西水彩画展(1・2室) 一創会展(3室) 国際水墨画展(4室)				関西独立美術展(1・2室) 創彩展(3室) 書道研究 歌友会書道展(4室)														

4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
特別展 特別陳列	特別展「没後150年 歌川国芳展」																													
常設展 (平常展)	「根付と印籠」 「小さな工芸」 「観音菩薩に出会う旅-西国三十三所 ア・ラ・カルト」 「端午の節句 五月人形」																													
美術団体展 (地下展覧会室)	関西独立美術展(1・2室) 創彩展(3室) 書道研究 歌友会書道展(4室)		新桃樹社大阪展(1・2室) 新美工芸会展(3室) 社団法人日本広告写真家協会 公募展APAアワード2011展(4室)				日本書芸院 無鑑査会員(特別賞除く)展(1~4室)				日本南画院展(1~4室)				ミレー友好協会展(1・2室) 新協大阪展併催公募展(3・4室)															

5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
特別展 特別陳列	特別展「没後150年 歌川国芳展」																														
常設展 (平常展)	「根付と印籠」 「小さな工芸」 「観音菩薩に出会う旅-西国三十三所 ア・ラ・カルト」 「端午の節句 五月人形」																														
美術団体展 (地下展覧会室)	全関西行動美術展(1・2室) 大阪美術協会日本画展(3・4室)				研水会展(1・2室) 新世紀展(3・4室)				和紙絵画和紙院展(1室) 浪花竹翠会墨彩画公募展(2室) 日本篆刻展(3・4室)				関西東光展(1・2室) 公募元展(3・4室)																		

6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
特別展 特別陳列	特別展「没後150年 歌川国芳展」																													
常設展 (平常展)	「根付と印籠」 「小さな工芸」 「観音菩薩に出会う旅-西国三十三所 ア・ラ・カルト」 「端午の節句 五月人形」											「根付と印籠」 「小さな工芸」 「近世の陶磁-有田焼と京焼-」 「大阪の風景・大阪の画家」																		
美術団体展 (地下展覧会室)	全国神職会書展 併催公募展(1・2室) 竹翠会書道展(3室) 由緒全国書道展学生部展(4室)				国展(1~4室)				五柳会公募書展(1・2室) 春陽展大阪展(3・4室)				立鼎社水墨画協会展(1・2室) 関西二紀展(3・4室)				日本書芸院 一科鑑査会員 無鑑査会員 特別賞展(1~4室)													

7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
特別展 特別陳列	特別展「第57回 全関西美術展」																														
常設展 (平常展)	「根付と印籠」 「小さな工芸」 「近世の陶磁-有田焼と京焼-」 「大阪の風景・大阪の画家」																														
美術団体展 (地下展覧会室)	日本書芸院 一科鑑査会員 無鑑査会員 特別賞展(1~4室)				墨滴会全国書展(1・2室) 新美術協会大阪展(3・4室)				関西匠友会展 旺玄展大阪展(1・2室) 春秋画壇展(3室) 現代水彩画展(4室)				二元展(1~3室) 現展関西展(4室)				大阪私学美術展(1~4室)														

8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
特別展 特別陳列	特別陳列「受贈記念 田原コレクション 色鍋島・藍鍋島」 特別陳列「中国石造彫刻400年 彫刻時光 Sculpting in time」 特別陳列「漆をたのしむ 蒔絵・螺鈿・根来」																														
常設展 (平常展)	「根付と印籠」 「小さな工芸」 「観音菩薩に出会う旅-西国三十三所 ア・ラ・カルト」 「端午の節句 五月人形」																														
美術団体展 (地下展覧会室)	日洋展大阪会場(1・2室) 創元展・大阪支部展(3・4室)				大阪府高校展(1~4室)				青朝会日本水墨画展(1室) 泰山書道院展覧会(2室) 具現展(3室) 研展(4室)				全日本高校・大学生書道展(1~4室)																		

9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
特別展 特別陳列	特別陳列「受贈記念 田原コレクション 色鍋島・藍鍋島」 特別陳列「中国石造彫刻400年 彫刻時光 Sculpting in time」 特別陳列「漆をたのしむ 蒔絵・螺鈿・根来」											特別展「生誕120周年 岸田劉生展」																		
常設展 (平常展)	「根付と印籠」 「小さな工芸」 「観音菩薩に出会う旅-西国三十三所 ア・ラ・カルト」 「端午の節句 五月人形」											特集展示「中国書画Ⅰ」 特集展示「仏教美術Ⅰ」 ~10/16(日)																		
美術団体展 (地下展覧会室)	日本書道芸術院展(1・2室) 2011 IFA展(3室) 関西平和美術展(4室)				玄遠社書展(1・2室) 全国公募日本墨相展(3室) 莞秋社書道展(4室) (莞秋社全国書道公募展併催)				日本総合書作院展(1・2室) 現代南画協会展(3・4室)				関西美術文化展(1・2室) 新象展(3・4室)				創造展(1・2室) 集団造形展(3室) 全国硬筆作品展覧会(4室) ~10/2(日)													

今後のスケジュール

- 9月17日(土)~11月23日(水・祝)
特別展「生誕120周年 岸田劉生展」
- 9月17日(土)~10月16日(日)
特集展示「中国書画Ⅰ- 鎮蔵・寄託の優品」
特集展示「仏教美術Ⅰ」
- 10月20日(木)~11月23日(水・祝)
特集展示「中国書画Ⅱ- 阿部コレクション」
特集展示「仏教美術Ⅱ」

幕末の奇才浮世絵師
没後150年 歌川国芳展
2011年4月12日(火)～6月5日(日)

前期:4月12日(火)～5月8日(日) 後期:5月10日(火)～6月5日(日)
※前期、後期でほとんどの作品が入れ替わります。

歌川国芳(1797～1861)は、幕末に活躍した浮世絵師です。『水滸伝』の英雄・豪傑たちをダイナミックに描いた武者絵で脚光を浴び、役者絵・美人画をはじめ、西洋画の影響を受けた風景画やウィットとユーモアに富んだ戯画など、さまざまな分野で個性的な作品をのこしています。

巨大なクジラとその背に刀を突き立てる宮本武蔵を描いた《宮本武蔵の鯨退治》(図①)は国芳の代表作。このように大判錦絵を3枚つなげた大画面に、大きくモチーフを描く手法を国芳は得意としました。迫力ある武者絵とは逆に、国芳は楽しくかわいらしい動物たちもたくさん描いています。《猫の当字 ふぐ》(図②)は、無類の猫好きである国芳の面目躍如たる作品で、ネコたちが伸びたり丸くなったりして「ふぐ」の文字を形作っています。また、《国芳もやう正札附現金男 野晒悟助》(図③)は、一見怪しげな雰囲気のある作品ですが、よく見ると着物のドクロは白い猫たちが寄り集まって出来ています。単にかわいらしいだけでなく、機知に富んでいるところも国芳作品の魅力のひとつです。

本展には、新発見の作品も出品されます。擬人化された金魚がかわいらしい《金魚づくし ぼんぼん》(図④)もそのひとつで、これまで同シリーズの8図が知られていましたが、本図は9図目としてイタリアで発見されたものです。

ここではほんのわずかな作品しかご紹介できませんが、400余点という史上最大級の規模で開催される本展で、ぜひとも国芳の魅力に触れてみてください。奇想天外なアイデアやあふれる想像力で江戸時代の人々を楽しませた国芳は、きっと現代の私たちの目も楽しませてくれることでしょう。



①宮本武蔵の鯨退治 弘化4年(1847)頃 [前期4/12～5/8]



②猫の当字 ふぐ 天保13年(1842)頃 [前期4/12～5/8]



③国芳もやう正札附現金男 野晒悟助 弘化2年(1845)頃 [後期5/10～6/5]



④金魚づくし ぼんぼん 天保13年(1842)頃 [後期5/10～6/5]

観覧料 一般1,300円(1,100円) 高大生900円(700円)
中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方は無料(要証明) *カッコ内は郵売 20名以上の団体料金、前売券は4月11日(月)まで発売
主催 大阪市立美術館、日本経済新聞社、毎日新聞社

受贈記念 田原コレクション
色鍋島・藍鍋島
2011年8月2日(火)～9月4日(日)

大阪市立美術館では、故田原一繁氏と元子夫人の収集による118点にのぼる鍋島焼をご寄贈賜りました。その受贈を記念して、初期鍋島から後期鍋島にいたる色絵・染付・青磁の名作の数々を紹介いたします。鍋島焼は、江戸時代に鍋島藩が将軍家や有力な大名・公家への贈答品などとして、佐賀県伊万里市大川内山に所在する鍋島藩窯で制作した磁器で、その和様の意匠と精緻な技法が特筆されます。特に元禄期の作例をはじめとした盛期鍋島の色絵はその極致といえるでしょう。田原コレクションは植物文様の作品が多いことが特色のひとつです。日本の四季をいろどる様々な花卉とそのデザインをお楽しみください。



●色絵 唐草文変形皿 鍋島藩窯・初期鍋島 [松分谷手] 江戸時代(17世紀)



●青磁染付色絵 青海波梅樹図皿 鍋島藩窯・盛期鍋島 江戸時代(17～18世紀)



●色絵 菊唐草文向付 鍋島藩窯・盛期鍋島 江戸時代(17～18世紀)



●青磁染付 宝辰文皿 鍋島藩窯・盛期鍋島 江戸時代(17～18世紀)

中国石造彫刻 400年
雕刻時光 - Sculpting in time
2011年8月2日(火)～9月4日(日)



●石造 菩薩交脚像 [背面] 北魏時代(5世紀後半) 本館蔵 [山口コレクション]

仏像は、人々が「仏のすがた」を想像し、礼拝の対象としてふさわしい、あるいはこうあって欲しいと思う理想を造形化したものです。そのため、面長で寝せていたり丸々とふくよかだったり仏像のスタイルも時代や地域によって変化しています。

「中国の仏像」というとなんだか堅苦しい難しそうな雰囲気ですが、そもそも美術鑑賞は観ている方が何を感じ何を思うかが重要なこと。王朝名がわからなくなっても、仏像の名前が読めなくなっても大きな問題ではありません。

大阪の暑い夏。涼しくて薄暗い展示室で、たまにはのんびりと石に刻まれた仏像を眺めてみませんか。

日本を代表する中国彫刻コレクションとして知られる本館蔵・山口コレクションを中心に、北魏～唐時代(5-8世紀)につくられた仏教・道教による石刻造像を展示します。



●石造 如来立像頭部 [河南省龍門石窟奉先寺洞窟] 唐時代(8世紀前半) 本館蔵 [小野コレクション]

特別陳列

うるし
 漆をたのしむ
 時絵・螺鈿・根来
 平成23年8月2日(火)～9月4日(日)

木に漆を塗ることは日本、中国、朝鮮半島では古くから行われてきました。金銀の粉で漆塗の器をかざる「時絵」、アワビや夜光貝など光沢のある貝を漆にはめ込む「螺鈿」、朱と黒漆塗の独特の風合が茶人によって好まれた「根来」など、多彩な器がつくられてきました。

近世の大坂は全国の漆を買い付け、漆器産地に販売する漆商いの中心地として知られています。そのため全国の産地の漆器もまた大坂に集まってきました。今回の展示では大阪市立美術館に所蔵、寄託される日本の漆器を展示します。漆を使った様々な技法、時絵であらわされた多彩な模様、近世から近代に至る日本の漆の多彩な表現をお楽しみください。



●花樹鳥獸時絵螺鈿聖龕 桃山時代(16世紀)



●【重要文化財】山水画時絵箱 江戸時代(17世紀) 大坂 宝通寺



●【国宝】菊唐草時絵手箱 南北朝時代(14世紀) 和歌山 熊野速玉大社

常設展(平常展)

■4月12日(火)～6月5日(日)

観音菩薩に出会う旅—
 西国三十三所 ア・ラ・カルト

観音信仰に基づく西国三十三所巡礼は一千年以上もの長い歴史をもち、近世以降、その札所寺院は庶民信仰の中心としてにぎわいました。彩り豊かな参詣曼荼羅をはじめ、三十三所ゆかりの仏教美術を絵画、工芸、彫刻、書跡にわたってご紹介します。



●三十三所観音曼荼羅図(部分) 鎌倉時代(13世紀) 阪草 華嚴寺

端午の節句—五月人形



5月5日、端午の節句には男の子の成長を祝い健康を祈り、五月人形をかざります。端午の節句にちなみ、江戸(東京)の人形師山川永徳斎の五月人形を中心に展示します。

●三代山川永徳斎 大将人形(五月人形) 大正(20世紀)

■4月12日(火)～7月18日(月・祝)

※6月6日(月)から6月13日(月)まで一部展示替えのため休館いたします。

根付と印籠

武士が腰に下げて用いた印籠とその滑り止めである根付は、江戸時代の技巧の粋がつくされ、多彩な主題が表されています。スイス人U.A.カザール氏が蒐集した小さな工芸の世界をお楽しみください。

小さな工芸

美術品の収集家にとって、小さな工芸品は手のひらにのせて愛玩する大切な逸品でした。本館の所蔵品、寄託品のなかから日本、中国で制作された精緻な作品を選び紹介します。

■6月14日(火)～7月18日(月・祝)

大阪の風景・大阪の画家

昭和11年に開館した大阪市立美術館には寄贈や寄託によって、たくさんの洋画が収蔵されています。これらの中から大阪ゆかり画家、大阪の風景を描いた作品を中心に展示します。



国枝金三(1886-1943) 街景I 昭和(20世紀) 本館蔵(国枝めい氏寄贈)

近世の陶磁

江戸時代の陶磁器は有田焼と京焼を中心に展開していきました。染付や色絵の磁器生産を主導した有田焼、瀟洒な色絵の陶器を生み続けた京焼。この二つの世界中心に館蔵品・寄託品の名品を展覧します。

推定住吉—「柿本人麿像」に併画される海浜風景の謎

昨年、特別展「住吉さん—住吉大社1800年の歴史と美術—」の準備に携わり、住吉をめぐる実に多種多様な主題・表現を俯瞰する機会に恵まれた。ここでは新たに一連の「柿本人麿像」に描かれる海浜風景に注目し、「和歌三神図」の創始など、「住吉絵」の周辺をめぐるいささか気になる問題を補足、整理しておきたい。

別掲「関係作例一覧」に5点の「柿本人麿像」を挙げた。いずれも委烏帽子・直衣指貫姿で上置に座す人麿像である。図像はA系、B系の二種に分類される。A系は頬、えらの張りが強調され、思案をめぐらせる壮年男性の面持ちを示す。佐竹本三十六歌仙絵の柿本人麿像を継承するタイプで、背景に梅や桜の花びらを散らす「兼房夢想系」に展開する。一方、身体の向きを反転させたB系は、顔は比較的細面で、うすすらと笑みを浮かべて夢想する老人の面持ちをみせる(写真=B系5・出雲歴博本)。その姿態は意外にも佐竹本の山部赤人像と近く、筆をとる指の細部表現も含め強い影響が認められる。A系図像が歌想を練る最中、B系図像が今しも歌を書き付けようという瞬間、という対比もできよう。

数ある人麿像のなかで、これら5点の存在を際立たせている最大の特徴は上述の人麿図像とは全く別のところにある。つまり、A系では画面の上・下端に置かれた海浜風景、B系では人麿の頭上余白に描かれる海浜風景が問題なのだ。松が点在する優美な州浜を俯瞰した白砂青松の名所絵風景だが、5点の人麿像に併画されたこれらの海浜風景は一体何を意味するのだろうか。住吉さん展の準備終盤になって気になりだしたが、時間切れににつき手仕舞いとなった。

A系1(藤谷家本)のそれについて、画面上・下のいずれが住吉、玉津島かは不明だが、この両所を描くのではないかと、いう冷泉為人氏の指摘がある(『寛永文化のネットワーク「隔莫記」の世界』)。B系4(東山御文庫本)を写すと見られる土佐光成の人麿像粉本(京都市立芸術大学蔵・土佐派絵画資料)を類例にあげるが、海浜風景の場所特定は留保している。ともあれその見方に従えば、A系1、2については立派に「和歌三神図」の要件を備えた画像となることが了解される。とくに室町時代に上がるA系1は、その形式的な創始を考えるにあたり実に示唆に富んだ作例となろう。人麿の肖像に住吉、玉津島の名所絵を取り合わせる構成自体は、「住吉家縮図帖」(東京藝術大学大学美術館蔵)中の「和歌三神図」の存在からも、後に続く三幅対形式にその名残をとどめたとみられるふしがある。つまり

〈関係作例一覧〉

系統	NO	作品名称	筆者等	制作年代	所蔵	備考
A	1	人麿図	伝土佐光成	室町時代	藤谷家	冷泉家の至宝展 219
	2	人麿図	有朝(傳)・有朝(傳)・有朝(傳) 豊元(傳)	江戸時代	冷泉家時雨亭文庫	冷泉家の至宝展 177
	3	柿本人麿像	伝承不明	室町時代	クリーブランド美術館	東洋絵画の精華展 59
B	4	柿本人麿像並和歌	伝藤原信美(傳) 伝藤原為家(傳)	鎌倉時代	宮内庁(東山御文庫御物)	皇室の至宝 東山御物 18
	5	柿本人麿像	伝藤原信美(傳) 伝藤原為家(傳)	江戸時代	鳥取県立古代出雲歴史博物館	神々のすがた展 55

「和歌三神図」の源は、A系1のような人麿像の中に問題の海浜風景を併画するところから始まった可能性がありはしないかと考える。

ところが、B系の人麿像についての図版解説では、画中の海浜風景に住吉とする見解、明石とする見解ともあって話が複雑になる。確かに、近世の「和歌三神図」では「ほのぼのと明石の浦の朝霧に島かくれゆく船をしそ思ふ」の歌意から、人麿肖像の背景には帆影、鳥影がうすすら浮かぶ明石浦風景が描かれる場合が圧倒的に多い。A系3(クリーブランド本)ではやや視点が近接するとともに、帆影や紅葉など景物が増加し、明石浦の景趣が看取できないこともない。またB系の変形で、左膝を立てる人麿像を描くセンチューリアム本があり、それでも背景には「明石浦遠景」が描かれるとされるから、少々気味が悪い。

人麿と住吉明神は一体視される時期もあったほど強く結びつき、中世まではしばしば対で祀られた絶対的な和歌神であった。この二柱を肖像と風景の組み合わせで一幅中に描くような粋な趣向を、B系4・5の人麿像がもっている、という風にあまり抵抗なしに思えるのは、佐竹本の人麿(肖像)・住吉明神(風景)が、もとその上巻・下巻の各巻頭に対置されたことへのリスベクトがあるせいだ。佐竹本の住吉明神はあくまで社頭風景として描かれている点でなお注意を要するかもしれないが、鎌倉時代まで上がるとされるB系4のごく単純な海浜風景が住吉と認められるならば、このような画像が、先に「和歌三神図」の創始とも考えたA系1の形式へと展開するさらなる母体となった可能性も出てくるのではないだろうか。

まず現段階では、推定住吉。さらなる手がかりを求めて、この海浜風景への検証を続けていきたい。
 (知念理
 ・当館主任学芸員)



●柿本人麿像 [所蔵・写真提供 鳥取県立古代出雲歴史博物館]

大阪市立美術館・その他事業のご案内

美術研究所

昭和21年に創設され、公立施設としては他に類をみないユニークな専門教育機関としてスタートしました。素描・絵画・彫塑の実技研究の事業を行っています。石膏素描(前期・後期)、人体素描、絵画、彫塑の課程があり、入所者はまず石膏素描前期からスタートし、年6回ある実技コンクールに合格した者が石膏素描後期、人体素描、絵画、彫塑へ順次進級していきます。

入所検定は、入所検定希望者に対して年3回(1月、4月、10月)に実施します。入所検定申込書をご希望の方は、90円切手を貼った封筒(長形3号)を同封し、入所検定申込書希望とお書き添えの上、下記大阪市立美術館「美術研究所」宛にお送りください。

●入所検定/「入所検定申込書」に検定料3,600円を添えて検定実施当日に提出する。可否の結果は、別途郵送にて通知する。

◎検定要領は別紙入所検定上の諸注意のとおり。

●入所料/5,400円

入所時には入所料と研究料(3ヵ月分)合計26,400円を全納する。

●研究料/月額研究料—石膏前・後期・絵画7,000円/人体・彫塑11,000円

毎月の研究料は前月末まで全納する。

■平成23年度 入所検定予定 4月1日(金)・9月30日(金)・平成24年1月13日(金)

友の会

“ FINE ARTの世界へご案内します ” < 随時会員募集中!! >

友の会では、日曜日に石膏、裸婦、人物コスチューム、静物画の絵画教室を開催しています。

料金は一日当たり、石膏デッサン800円、油彩・水彩等1500円(別途モデル料が必要)です。

●年会費 一般 4,000円 学生 3,000円

●特典 大阪市立美術館での展覧会鑑賞の優待があります。古刹を訪ねて仏像などの見学会を実施しています。その他にも色々な行事に参加できます。

まず、友の会で活動されてから美術研究所に入所されてはいかがでしょうか。

■事務局：大阪市立美術館内

お問合せ：TEL/FAX：(06) 6779-9288 E-mail：tomonokai@osaka-art-museum.jp

大阪市立美術館(天王寺公園内)

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

TEL.06-6771-4874 FAX06-6771-4856

ホームページアドレス <http://www.osaka-art-museum.jp>



●特別陳列 観覧料

一般500円(団体400円)、高大生400円(団体300円)

●常設展(平常展) 観覧料(特集展示を含む)

一般300円(団体150円)、高大生200円(団体100円)

中学生以下・障害者手帳等をお持ちの方は無料 団体料金は20名以上

※特別展は別料金。特別展併設時は特別展観覧料で常設展もご覧いただけます。

※平成24年より常設展は平常展という名称に変わります。

●休館日

月曜日(祝日の場合はその翌日)、展示替え期間、年末年始

●開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

●交通

地下鉄御堂筋線、谷町線、JR「天王寺」駅、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅、阪堺軌道上町線「天王寺駅前」駅下車または市バス「あべの橋」停留所下車、北西へ約400m

